

本年度から「総合的な探究の時間（総探）」がスタートする。「総探」の目的は、「生徒自らが立てた『探究課題（テーマ）』の解決を図るため、地域に出かけ、地域の人々との交流を通して『望ましい勤労観・職業観』の育成を図る」ことである。

生徒自身の「生き方」に根ざす「探究課題（テーマ）」を解決するため、地域に出かける。地域の人々との交流を通し、人々の持つ働きがいやどのような仕事が社会を支えているのかを生徒自身の「生き方」と関連付けてより具体的に学ぶ。

「宜野湾高校の生徒達へ(8)」の『迷う力のすばらしさ』（石田衣良）で、「自分で課題を立て納得のいく答えを見つけることの大切さ」については触れておいた（未読の人は要確認）。

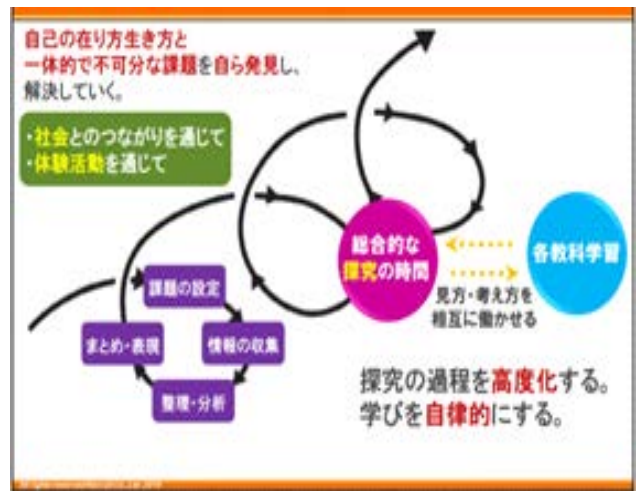
本校ではSDGs（持続可能な開発目標）と関連づけた探究課題の設定を考えている。

「SDGs とはなんぞや?」。これを含めて総探の詳しい内容は、学校HPに掲載される予定。

さて、ここで総探の学習プロセスのイメージ図（山下真司：リクルートより）を紹介する。

その理由は、この学習プロセスが教科の学習にも活かせるからだ。総探の学習プロセスの基本形は「課題の設定」→「情報の収集」→「整理・分析」→「まとめ・表現」（右図参照）。この学習プロセスを各教科の学びに活かしたいので、「政治・経済」（1年）の「地方自治制度」を例に説明しよう。

まず、「課題」（問い）を「沖縄において地方自治の本旨（本来の目的）が達成されているか?」と設定してみよう。この「課題」（問い）を解決するために「地方自治の本旨」について教科書、資料集から読み取る（「情報の収集」）。それを「住民自治」（住民の意思に基づいて行われる）や「団体自治」（団体自らの意思と責任の下でなされる）の言葉で「整理」する。そして、設定した「課題」（問い）への回答や「地方自治」を学んだ感想をまとめる（「まとめ・表現」）。



【総探の学習プロセスのイメージ図】

少しはイメージできただろうか？ 大切なのは、1時間の授業に「課題」（問い）を持って臨むこと。1時間の授業で問いを解決した後に、新たな問いが生まれ、その解決に向かうのが理想的。

先の「地方自治」を例にすると「住民自治は、住民の意思に基づいて行われるという民主主義的要素があるというけど、辺野古の新基地建設は住民の意思に基づいているのだろうか?」といった新たな問い等が生まれ、学びが深まっていく。このように1時間の授業で学んだ後に、新たな問いが生まれてくる過程を図式化したものが上の【総探の学習プロセスのイメージ図】である。

以上の説明は、皆さんには理解が難しいかもしれないが、学年が上がるにつれ、1時間の授業に「課題」（問い）を持って臨むことの大切さを実感することだろう。

上で述べた「総探の学習プロセス」を意識して総探や各教科を取り組むことにより、宜野湾高校の3年間で皆さんはどこへ出ても十分に通用する力を身につけることができる。

これまでも書いてきたが、「学校の授業に本気で取り組めば、あなたの人生は確実に変わる！」。

「宜野湾高校の生徒達へ(G1S)」も11回を数えた。皆さんは理解できているだろうか？ 2・3年生は理解できても、1年生には厳しいかもしれない。しかし、「G1S」を理解できるようになると、君たちの知的レベルは他校生には負けないものとなる。しっかり読んで理解するように！

宜野湾高等学校長 津留一郎